

The logo for azbil, featuring the word "azbil" in a bold, red, lowercase sans-serif font.

人を中心としたオートメーション

# アズビル株式会社 証券コード: 6845(東証1部)

## 2016年度(2017年3月期) 中間決算説明会

### <アジェンダ>

1. 上期 連結業績
2. 通期 連結業績計画
3. 株主の皆様への利益還元
4. 今後の事業展開に向けて



アズビル株式会社は  
2016年に創業110周年を迎えます。

日時：2016年11月2日 16:00 - 17:00

場所：JPタワー ホール&カンファレンス

- 1) 金額は表示単位未満切り捨てで記載しています。
- 2) 次の通りセグメント名称を略称で記載しています。
  - B A: ビルディングオートメーション
  - A A: アドバンスオートメーション
  - L A: ライフオートメーション
- 3) azbilグループの売上は下期に集中する傾向がある一方、固定費は恒常的に発生するため、例年、上期の利益は下期に比べて低くなる傾向があります。
- 4) 業績計画は、現時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

# 1. 上期 連結業績

# 1. 上期 連結業績 経営成績



- 前年同期における受注計上範囲の見直し及び大型案件の計上の反動に加えて為替の影響もあり受注高が前年同期比で減少。
- 前年度末の受注残高の積み上がりを背景にAA事業、BA事業の売上高が増加し、全体としても前年同期比増収。BA事業における工程管理の徹底・早期化の取組み等により計画比でも売上高が増加。
- 営業利益は、増収、体質改善・事業構造変革の成果、のれん償却費の減少により前年同期比増加。計画比でも増収、体質改善によるAA事業の増益で増加。
- 営業利益の改善を受けて経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比増加、為替差損の発生や一部海外事業の見直しに伴い特別損失を計上したが、税金費用の減少もあって計画比でも共に増加。

[単位: 億円]

	当期	計画	対計画		前年同期	対前年同期	
			増減	増減%		増減	増減%
受注高	1,407				1,597	△190	△11.9
売上高	1,176	1,155	+21	+1.8	1,140	+35	+3.1
国内	963				900	+62	+7.0
海外	212				240	△27	△11.6
売上総利益	397				390	+6	+1.7
%	33.8				34.2	△0.4P	
販売費及び一般管理費 (内のれん償却額)	348 (0)	(0)	-		355 (3)	△7 (△3)	△2.0
営業利益	49	38	+11	+29.7	35	+13	+39.1
%	4.2	3.3	+0.9P		3.1	+1.1P	
経常利益	42	36	+6	+16.9	34	+7	+21.5
税金等調整前四半期純利益	32				33	△1	△5.0
親会社株主に帰属する四半期純利益	23	20	+3	+15.9	17	+5	+33.6
%	2.0	1.7	+0.2P		1.5	+0.5P	

# 1. 上期 連結業績

## セグメント別 - BA事業

- 受注高は、前年同期における受注計上範囲の見直し※<sup>1</sup>及び大型案件の計上の反動に加えて為替の影響等で海外※<sup>2</sup>が減少したが、国内の事業環境は堅調を維持。
- 売上高は、既設建物向け並びにサービス分野が増加し、前年同期比増加。計画比では国内すべての分野で増加。
- セグメント利益は、増収による効果等があったが、貸倒等に備えた引当の一時的な費用が発生した他、研究開発費が増加したことから前年同期並みとなる。計画比でも同様の要因によりほぼ計画線。

[単位: 億円]

	当期	計画	対計画		前年同期	対前年同期	
			増減	増減%		増減	増減%
受注高	751				855	△104	△12.2
売上高	494	470	+24	+5.2	481	+12	+2.6
セグメント利益	16	17	△0	△1.3	17	△0	△2.0
%	3.4	3.6	△0.2P		3.6	△0.2P	
(ご参考) のれん償却額	-	-	-		-	-	

※<sup>1</sup> 2015年度において、国内における複数年契約の受注計上範囲の見直しを実施。この見直しにより、2015年度において、複数年契約の受注計上額が一時的に大きく増加。(2014年度以前の既存契約分については、この受注範囲の見直しにより約40億円を2015年度において一括で計上している。)

※<sup>2</sup> 中国におけるBAの事業環境の変化から同国における事業見直しを実施。これに伴い、関係会社整理損を計上。但し、税金費用の減少もあり、親会社株主に帰属する四半期純利益への影響は限定的。

# 1. 上期 連結業績

## セグメント別 - AA事業

- 受注高は、前年同期における大型案件計上の反動及び為替の影響で前年同期比で減少となったが、国内において半導体製造装置やエネルギー関連市場は増加。
- 売上高は、前年度末の受注残高の積み上がりを背景に国内市場が伸長し、前年同期比増加。
- セグメント利益は、円高によるマイナス影響を受けたものの、国内での増収および利益体質改善の取組みにより前年同期比増加。計画比でも利益体質改善の取組みを理由として増加。

[単位：億円]

	当期	計画	対計画		前年同期	対前年同期	
			増減	増減%		増減	増減%
受注高	457				501	△44	△8.8
売上高	460	460	+0	+0.1	436	+24	+5.5
セグメント利益	25	14	+11	+85.4	15	+10	+68.4
%	5.6	3.0	+2.6P		3.5	+2.1P	
(ご参考) のれん償却額	0	0	-		1	△0	

# 1. 上期 連結業績

## セグメント別 - LA事業

- ガス・水道メータ及び住宅用全館空調の分野の受注は着実に推移したが、ライフサイエンスエンジニアリング(LSE)分野において前年同期に大型案件を計上したことの反動並びに為替の影響を主因とする減少により、LA事業全体の受注高は前年同期比で減少。
- 売上高は、為替の影響もあってLSE分野が減少したが、ガス・水道メータ分野及び住宅用全館空調の分野が増収し、前年同期比で微減となるが、計画は達成。
- セグメント利益は、のれん償却費の減少並びにLSE事業をはじめとする事業構造変革の成果により計画通り改善し、前年同期比で増加。

[単位：億円]

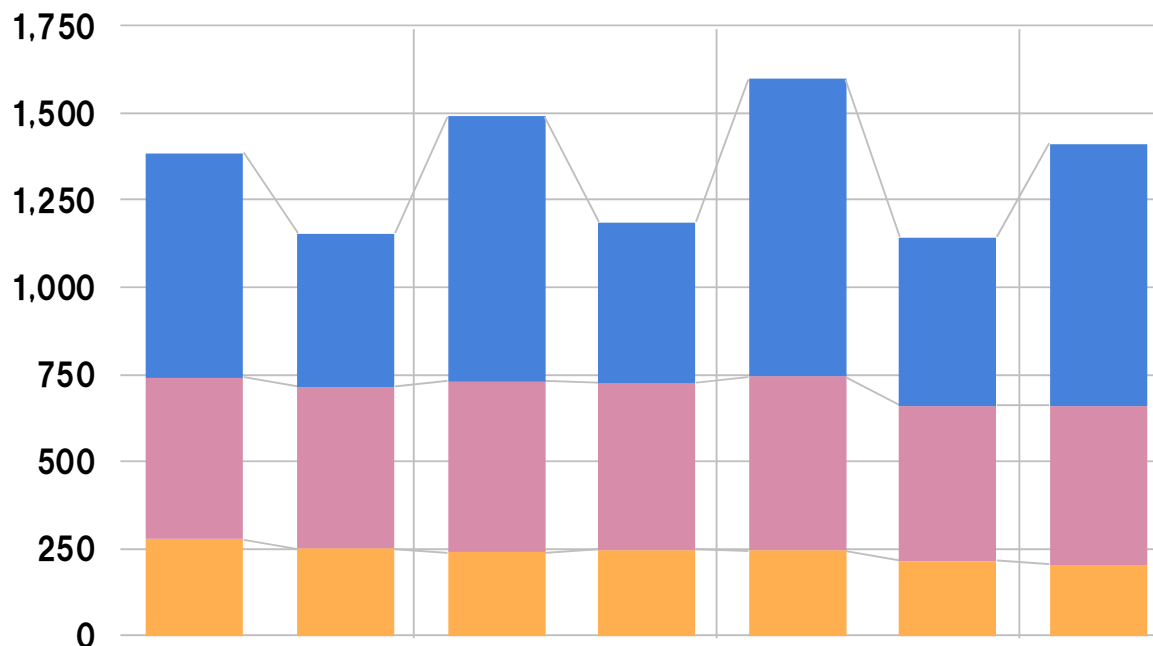
	当期	計画	対計画		前年同期	対前年同期	
			増減	増減%		増減	増減%
受注高	204				243	△39	△16.1
売上高	226	225	+1	+0.6	227	△1	△0.5
セグメント利益	6	7	△0	△7.6	2	+3	+134.3
%	2.9	3.1	△0.3P		1.2	+1.6P	
(ご参考) のれん償却額	-	-	-		2	△2	

# 1. 上期 連結業績

## [参考] セグメント別受注高 推移



[単位: 億円]



年度	2013 上期	2013 下期	2014 上期	2014 下期	2015 上期	2015 下期	2016 上期
BA事業	644	440	761 <sup>※1</sup>	461	855 <sup>※2</sup>	483	751
AA事業	465	465	491	479	501	447	457
LA事業	276	250	238	246 <sup>※3</sup>	243	214	204
連結	1,376	1,147	1,487	1,181	1,597	1,138	1,407

※1 契約期間が複数年となる大型のサービス案件を複数受注し、その複数年分の契約額を一括計上。

※2 2015年度において、国内における複数年契約の受注計上範囲の見直しを実施。この見直しにより、2015年度において、複数年契約の受注計上額が一時的に大きく増加。

※3 アズビルあんしんケアサポート株式会社の全株式を総合警備保障株式会社へ譲渡(2015年2月)し、同社を連結の範囲から除外。受注高、売上高、セグメント利益については2014年度第3四半期までを連結。なお、セグメント利益への影響は軽微。

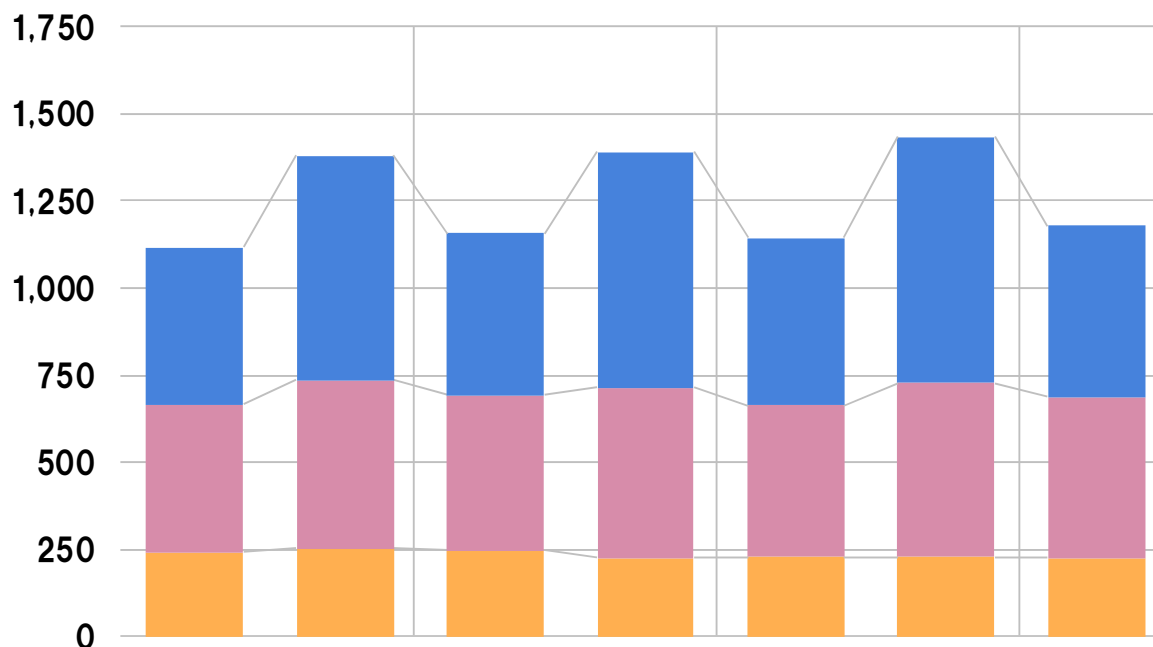


# 1. 上期 連結業績

## [参考] セグメント別売上高 推移



[単位: 億円]



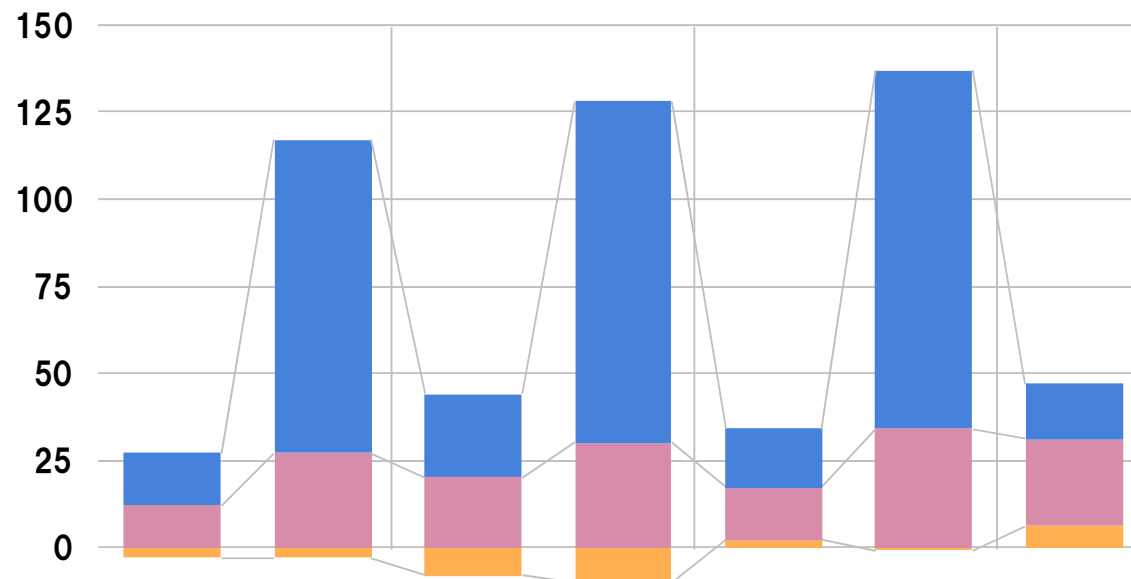
年度	2013		2014		2015		2016
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期
■ BA事業	450	644	466	676	481	706	494
■ AA事業	424	483	445	490	436	498	460
■ LA事業	242	253	247	225	227	229	226
連結	1,112	1,371	1,156	1,387	1,140	1,428	1,176

# 1. 上期 連結業績

## [参考] セグメント利益(営業利益) 推移



[単位: 億円]



年度	2013		2014		2015		2016
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期
■ BA事業	15	90	24	98	17	103	16
■ AA事業	12	27	20	30	15	34	25
■ LA事業	△3	△3	△8	△10	2	△1	6
連結	24	114	35	117	35	135	49

# 1. 上期 連結業績 海外エリア別売上高

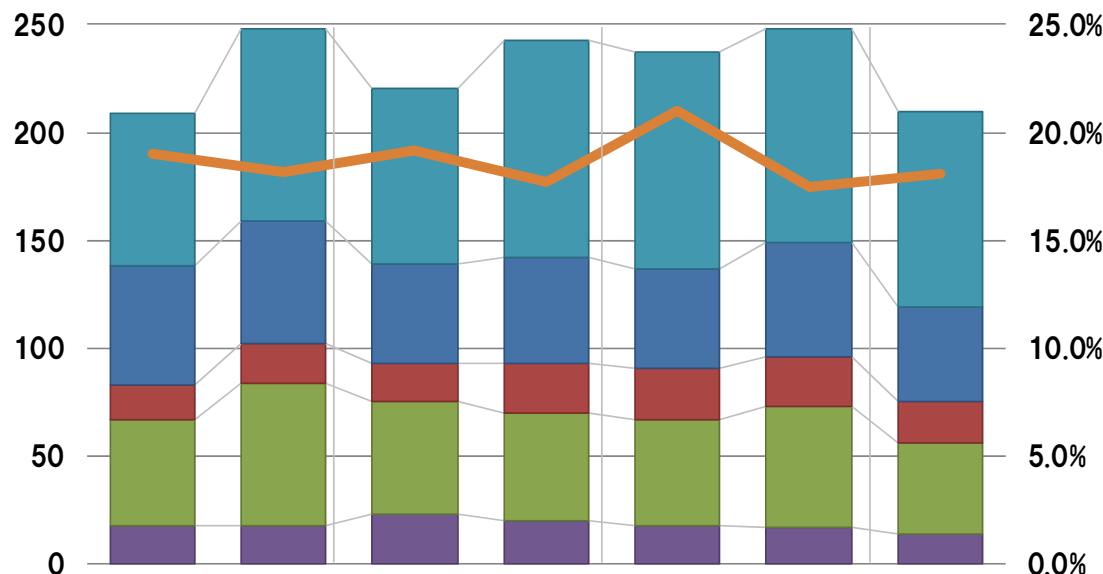


[単位: 億円]

<対前年同期>

海外売上高は、為替の影響を主因として前年同期比減収

- アジア地域は、BA事業・LA事業が拡大したが、AA事業が韓国等における市況低迷の影響から減少、これに加え全体として円高の影響から減収。
- 中国は、AA事業のプロダクト販売の分野が堅調であったが、為替の影響から全体では減収。
- 北米は、為替に加えてAA事業の装置メーカー向け販売の減少により、減収。
- 欧州は、LA事業のLSE分野において為替の影響から減収。



年度	2013		2014		2015		2016
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期
■ アジア	71	89	81	101	100	99	91
■ 中国	55	57	46	49	46	53	44
■ 北米	16	18	18	23	24	23	19
■ 欧州	49	66	52	50	49	56	42
■ その他	18	18	23	20	18	17	14
連結	221	249	221	245	240	249	212

(ご参考)

■ 海外売上高%	19.0%	18.2%	19.1%	17.7%	21.0%	17.5%	18.0%
期中平均レート(USD)	95.73	97.73	102.46	105.79	120.31	121.11	111.74
期中平均レート(EUR)	125.63	129.78	140.42	140.35	134.10	134.31	124.58

※ 海外売上高は、現地法人と直接輸出の売上のみを集計しており、間接輸出は含まず。

※ 現地法人の事業年度は主に12月31日を期末日とする年度を採用。

# 1. 上期 連結業績 財政状態



azbilグループの資産・負債は事業の季節性により、上期末は前年度末と比べて減少する傾向にある。

- 資産 売上債権の減少により、前年度末比193億円の減少。
- 負債 仕入債務の減少に加えて、未払法人税等や賞与引当金が減少し、前年度末比170億円の減少。
- 純資産 利益※1の計上による増加があった一方で、配当金の支払に加えて、為替換算調整勘定の減少により、全体として前年度末比22億円の減少。

※1 親会社株主に帰属する四半期純利益

	当期末 (A)	前年度末 (B)	対前年度末 増減 (A) - (B)		当期末 (A)	前年度末 (B)	対前年度末 増減 (A) - (B)
<b>流動資産</b>	<b>1,827</b>	<b>2,008</b>	<b>△180</b>	<b>負債</b>	<b>850</b>	<b>1,021</b>	<b>△170</b>
現金及び預金	514	482	+32	流動負債	733	889	△156
受取手形及び売掛金	754	917	△163	仕入債務	364	455	△91
たな卸資産	230	241	△11	短期借入金・社債	112	120	△7
その他	328	366	△38	その他	255	313	△57
<b>固定資産</b>	<b>570</b>	<b>583</b>	<b>△12</b>	固定負債	117	132	△14
有形固定資産	234	243	△9	長期借入金・社債	5	6	△0
無形固定資産	54	56	△1	その他	112	126	△13
投資その他の資産	280	282	△1	<b>純資産</b>	<b>1,547</b>	<b>1,569</b>	<b>△22</b>
				株主資本	1,465	1,466	△1
				資本金	105	105	-
				資本剰余金	123	123	+0
				利益剰余金	1,283	1,284	△1
				自己株式	△46	△46	△0
				その他の包括利益累計額	64	83	△18
				非支配株主持分	17	19	△2
<b>資産合計</b>	<b>2,398</b>	<b>2,591</b>	<b>△193</b>	<b>負債純資産合計</b>	<b>2,398</b>	<b>2,591</b>	<b>△193</b>

[単位: 億円]

※2

(ご参考) 自己資本比率: 当期末 63.8%、前年度末 59.8%

※2 為替換算調整勘定の減少(19億円)を含む。

# 1. 上期 連結業績

## キャッシュ・フローの状況

- 営業活動によるキャッシュ・フローは、たな卸資産の減少等により増加となった一方、投資活動によるキャッシュ・フローが定期預金の預入による支出の増加及び有価証券の売却収入の減少により減少したため、フリー・キャッシュ・フローは58億円と前年同期比39億円の減少。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、自己株式取得の減少及び借入金返済による支出の減少により前年同期比で43億円の支出の減少。

[単位：億円]

	当 期	前年同期	対前年同期	
			増減	%
営業活動によるキャッシュ・フロー	68	22	+45	+201.0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9	75	△85	△113.2
フリー・キャッシュ・フロー(FCF)	58	98	△39	△40.6
財務活動によるキャッシュ・フロー	△25	△68	+43	-
現金及び現金同等物に係る換算差額	△15	△0	△15	-
現金及び現金同等物の増減額	17	29	△12	△41.7
現金及び現金同等物の期首残高	559	519	+40	+7.8
現金及び現金同等物の期末残高	576	548	+28	+5.1

(ご参考)

設備投資	16	14	+1	+12.6
減価償却費	19	19	+0	+1.0

## **2. 通期 連結業績計画**

## 2. 通期 連結業績計画 業績計画



上期の業績は計画を若干上回る結果となったが、依然、国内外設備投資の動向は不透明であり、円高の継続も予想されることから、通期の売上高、営業利益に関しては、2016年5月13日発表の通りとし、これを据え置く。

なお、経常利益については、上期における為替差損計上の状況から5億円の減少を見込むが、親会社株主に帰属する当期純利益については期初発表のままとし、据え置く。

[単位：億円]

	修正計画	期初計画	対期初計画		前年度	対前年度	
			増減	増減%		増減	増減%
売上高 (のれん償却額)	2,600 (0)	2,600 (0)	-	-	2,568 (6)	+31 (△6)	+1.2
営業利益 %	190 7.3	190 7.3	-	-	171 6.7	+18 +0.6P	+10.9
経常利益	180	185	△5	△2.7	166	+13	+8.3
親会社株主に帰属する当期純利益 %	115 4.4	115 4.4	-	-	82 3.2	+32 +1.2P	+39.1

## 2. 通期 連結業績計画 セグメント別計画 (1)

[単位: 億円]

	修正計画	期初計画	対期初計画		前年度	対前年度		
			増減	増減%		増減	増減%	
■ B A事業	売上高	1,200	1,200	-	-	1,188	+11	+1.0
	(のれん償却額)	(-)	(-)	(-)		(-)	(-)	
	セグメント利益	125	130	△5	△3.8	120	+4	+4.0
	%	10.4	10.8	△0.4P		10.1	+0.3P	
■ A A事業	売上高	940	940	-	-	935	+4	+0.5
	(のれん償却額)	(0)	(0)	-		(1)	(△1)	
	セグメント利益	50	43	+7	+16.3	50	△0	△0.6
	%	5.3	4.6	+0.7P		5.4	△0.1P	
■ L A事業	売上高	460	460	-	-	456	+3	+0.8
	(のれん償却額)	(-)	(-)	(-)		(5)	(△5)	
	セグメント利益	15	17	△2	△11.8	0	+14	-
	%	3.3	3.7	△0.4P		0.2	+3.1P	
連 結	売上高	2,600	2,600	-	-	2,568	+31	+1.2
	(のれん償却額)	(0)	(0)	-		(6)	(△6)	
	営業利益	190	190	-	-	171	+18	+10.9
	%	7.3	7.3	-		6.7	+0.6P	



## 2. 通期 連結業績計画 セグメント別計画（2）

**BA**

Building  
Automation

**利益計画を見直すが、引き続き前年度を超えるセグメント利益の達成を目指す。**

- ◆ 通期売上高は期初計画通りを見込むが、工程管理の徹底・早期化の取組みで上期での売上計上が増えていることから下期売上は期初計画比で若干の減少。
- ◆ 上期より実施のジョブ処理能力確保のための体制強化により下期セグメント利益の減少を見込むが、施工収益管理等、採算重視の取組みを徹底し、前年度を超える利益の確保を目指す。
- ◆ オリンピック後に予想される事業環境を見据え、これまでの納入実績を基に、今後改修が予定される既設建物市場の顧客への提案にも引き続き注力し、将来における成長の基盤を造り込む。

**AA**

Advanced  
Automation

**下期事業環境に不透明さはあるが、上期業績結果を受けて通期セグメント利益を引き上げ。**

- ◆ 国内外の事業環境が不透明であり、高い水準での円高継続による売上、利益への影響も見込まれるが、収益体質の改善を継続し、通期でのセグメント利益を上方修正、前年度同水準の利益を確保する。
- ◆ 今年度から取り組んでいる3つの事業単位でのオペレーションにおいて、収益体質の改善と競争力ある事業サブセグメントの構築に向けた営業力・商品力の強化を進める。

**LA**

Life  
Automation

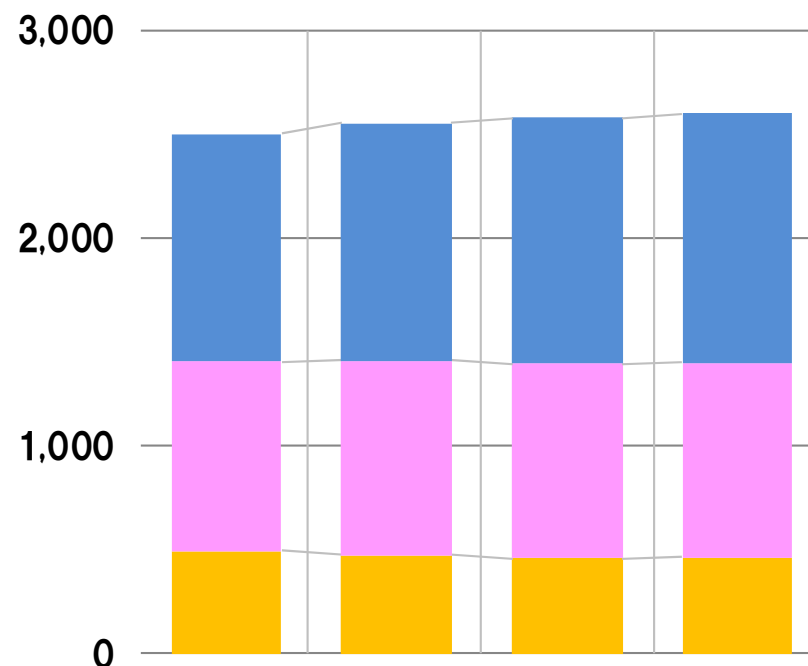
**収益計画に若干の見直しを加えるが、引き続き事業変革の成果による前年度比大幅利益改善を見込む。**

- ◆ ライフサイエンス(LSE)分野での事業構造変革を継続して推進し、その成果及びのれん償却費減少により、前年度比大幅な利益改善を見込む。
- ◆ LA構成事業各社の事業強化及びそれぞれが持つ特徴を活かしたエネルギー、製造装置領域での新しいオートメーションを追求する。

## 2. 通期 連結業績計画 [参考] セグメント別売上高 推移



[単位：億円]



年度	2013	2014	2015	2016 (計画)
BA事業	1,095	1,143	1,188	1,200
AA事業	908	936	935	940
LA事業	495	473 <sup>※</sup>	456	460
連結	2,484	2,544	2,568	2,600

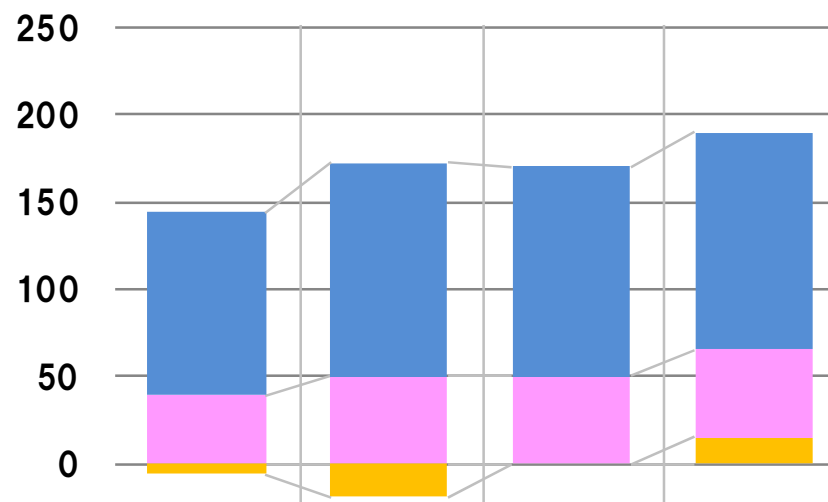
※ アズビルあんしんケアサポート株式会社の全株式を総合警備保障株式会社へ譲渡(2015年2月)し、同社を連結の範囲から除外。売上高、セグメント利益については2014年度第3四半期までを連結。なお、セグメント利益への影響は軽微。

## 2. 通期 連結業績計画

### [参考] セグメント利益(営業利益) 推移



[単位: 億円]



年度	2013	2014	2015	2016 (計画)
■ BA事業	105	122	120	125
■ AA事業	39	50	50	50
■ LA事業	Δ 6	Δ 19	0	15
連結	139	153	171	190

### **3. 株主の皆様への利益還元**

### 3. 株主の皆様への利益還元 配当金



2016年度 配当計画 → 期初計画から修正なし

**配当金（年間）：1株当たり74円**  
(普通配当2円増配、記念配当5円実施)

#### 【基本方針】

株主の皆様への利益還元を重視し、連結業績、自己資本当期純利益率、純資産配当率の水準、将来の事業展開と企業体質強化のための内部留保等を総合的に勘案して、配当水準の向上に努めつつ、安定した配当を維持する。

2016年度は、株主の皆様への一層の利益還元を進めるべく、配当水準のさらなる向上を図り、普通配当を2円増配し、さらに当社創業110周年及び新名称azbil導入10周年を迎えるにあたり、1株当たり5円の記念配当を実施予定。

#### ■ 2016年度(中間配当/期末配当)計画

	2015年度		2016年度	
	中間	期末	中間	期末
1株当たり配当金 [円]	33.5	33.5	37.0	37.0(計画)
配当性向	59.4%		47.1%	
純資産配当率 (DOE)	3.1%		3.4%	

(ご参考) 2016年9月末時点 配当利回り 2.4%

## 4. 今後の事業展開に向けて

## 4. 今後の事業展開に向けて 中期経営計画(2013-2016年度)の進捗状況(1)

### 3つの基本方針

- 技術・製品を基盤にソリューション展開で「顧客・社会の長期パートナー」へ
- 地域の拡大と質的な転換で「グローバル展開」
- 体質強化を継続的に実施できる「学習する企業体」を目指す

### 3つの 成長事業領域

- 次世代ソリューション
- 安全・安心ソリューション
- エネルギーマネジメントソリューション

### 3つの体質強化

- グローバル生産・開発の構造改革
- エンジニアリング、サービス事業の構造改革
- 人材リソース改革

### 事業活動基盤としての CSR経営

- 自らの活動と共に本業を通じて顧客のCO<sub>2</sub>削減・省資源に貢献
- リスク管理の行き届いた経営と高いコンプライアンス風土の育成
- 内部統制、会計等の国内外グループ会社のガバナンス強化
- 健全な財務基盤とコーポレートガバナンスの確立



- ↓
- 現中期経営計画(2013~2016年度)において「人を中心としたオートメーション」とその理念の理解と事業化が進展
  - IoTが進展し、事業構造が変化する時代にあっても、原点となる計測と全体のネットワーク/管理制御/サービスを統合的に進めることができるazbilグループの取組みの方向性はより重要度を増す

**2016年度：** 現中期経営計画最終年度として、次期中期経営計画に向けての基礎固めとなる施策を実施

## 4. 今後の事業展開に向けて 中期経営計画(2013-2016年度)における進捗状況(2)

2016年度  
業績目標 **売上高 2,600億円** (△200億円) **営業利益 190億円** (△30億円)

※ ( ) 内は2013年5月公表の当初計画との差異

事業セグメント

### BA事業

- 国内BA事業基盤強化  
(首都圏再開発、オリンピック需要取込み)
- エネルギーマネジメントビジネスの強化(オリンピック後の反動への備え)
- 海外事業のライフサイクル化  
(利益創出モデルの確立)

### AA事業

- 注力領域(HA/FA市場)へのシフト、体制強化
- 成熟領域(PA市場)のサービス事業高付加価値化
- 商品開発力強化
- 海外事業のインフラ強化  
(開発、生産、営業、サービス)

### LA事業

- アズビル金門事業基盤整備  
(国内工場再編、新製品)
- アズビルテルスター構造変革(事業再編、子会社統廃合)
- 全館空調分野構造改革  
(利益体質強化)
- アズビルあんしんケアサポート株式譲渡



### グループ内人材再配置(成熟領域の効率化と成長領域へのシフト)

横断機能

グローバルでのリモートメンテナンスを含むサービス基盤整備・体制構築、グローバル顧客向け現地開発力強化、グローバルでの最適生産体制

- 北米技術開発拠点設立(アズビル北米R&D)
- 藤沢テクノセンター研究・開発拠点整備開始
- タイ新工場、海外生産体制強化(アズビルプロダクションタイランド、アズビル機器(大連))
- 湘南・伊勢原工場の統廃合
- 遠隔サービス/IT基盤整備
- サウジアラビア生産工場/各地域メンテナンスセンター整備

経営管理

- 全社基幹情報システム稼働(第1次 2015年5月~)
- 確定拠出年金への移行(2015年6月~)
- 国内外人材最適配置の促進、人材育成プログラム充実
- グローバルでのガバナンス、コンプライアンス強化



## 4. 今後の事業展開に向けて 各事業における進捗状況と今後の展開



### ●当初計画（2013年5月）の計画線上で進捗。体制整備等への投資を併せて実施

- 東京オリンピック開催を契機とした国内新設・既設建物の需要増加に対応し、着実な受注獲得とジョブ遂行のための体制整備を実施。
- オリンピック後の既設建物の改修及びエネルギーマネジメントに係る提案、製品強化を上記に平行して実施。

#### 【今後の展開】

- 国内は、オリンピック以降に予定される大型既設建物改修への提案を拡大し、継続的な成長を確実なものとする。
- グローバル展開は、ローカル市場の開拓・成長施策を進め、ライフサイクルでの事業に整備していく。

### ●海外事業での利益創出が定着するが、当初計画（2013年5月）の計画未達

- 国内事業環境（設備投資低迷）、中国市場の停滞、円高影響から計画達成に遅れ。
- 海外での事業は、AA事業全体を押し上げるには至っていないが着実に利益を創出できる段階へ。

#### 【今後の展開】

- 3つの事業単位での取組みにおける成果を成長につなげていく。
- 第4次産業革命に代表される事業構造の変化に対応した製品・サービスの強化を行い、グローバル（国内外）での成長を目指す。



### ●セグメント利益は当初計画（2013年5月）レベル

- 事業構成の見直しを行い健康福祉・介護事業を売却、併せてLA事業構成各分野の事業構造変革を推進。事業規模は当初計画規模に達しなかったが利益は計画レベルへ。

#### 【今後の展開】

- 各事業領域の強化と共に、グループでのシナジーを意識したエネルギー、製造装置領域での新たなオートメーションを発展させる。



## 4. 今後の事業展開に向けて 企業体質強化の進捗状況と今後の展開



### 顧客・社会 の長期 パートナー (技術製品の 核を活かして)

- **新たな顧客提供価値の創出が進み、長期パートナーとしての関係が深化**
  - ・ 営業・サービス・生産等における横断的体制整備が進み、顧客への付加価値面で新たな商品・サービスが拡大。
  - ・ エネルギーマネジメント、エネルギーインフラ領域を中心に事業シナジーが進展。
  - ・ 国内外でライフサイクルでの顧客関係が深化。

#### 【今後の展開】

- ・ azbilグループのライフサイクルでの計測・制御・データ管理・遠隔サービス等の特長を活かし、第4次産業革命の変化を新たな成長機会と捉え、事業モデルを進化させる。

### グローバル 展開 (地域拡大と 質的転換)

- **グローバルでの事業拡大が進み、海外生産も拡大**
  - ・ 事業でのグローバル展開拡大に加えて、3局体制（日本、中国、タイ）による海外生産体制の整備・拡大が進み、海外生産比率が拡大、コスト低減が進展。

#### 【今後の展開】

- ・ 国内開発拠点、生産拠点の統合整備を推進し、この基盤を活かした展開を進める。
- ・ 2015年度にアズビルに導入した全社業務・IT基盤をグループ各社へ展開し、グローバルでの基盤統一を図る。

### 学習する 企業体 (体質強化の 継続)

- **事業環境の変化に応じた柔軟な組織運営と人材育成が進む**
  - ・ 2012年設立のアズビルアカデミーを活用し、キャリア・デベロップメントとしての異動者教育、技術プロフェッショナル認定制度、グローバルマネジメント研修等、事業展開に応じた人材育成の仕組みを構築。

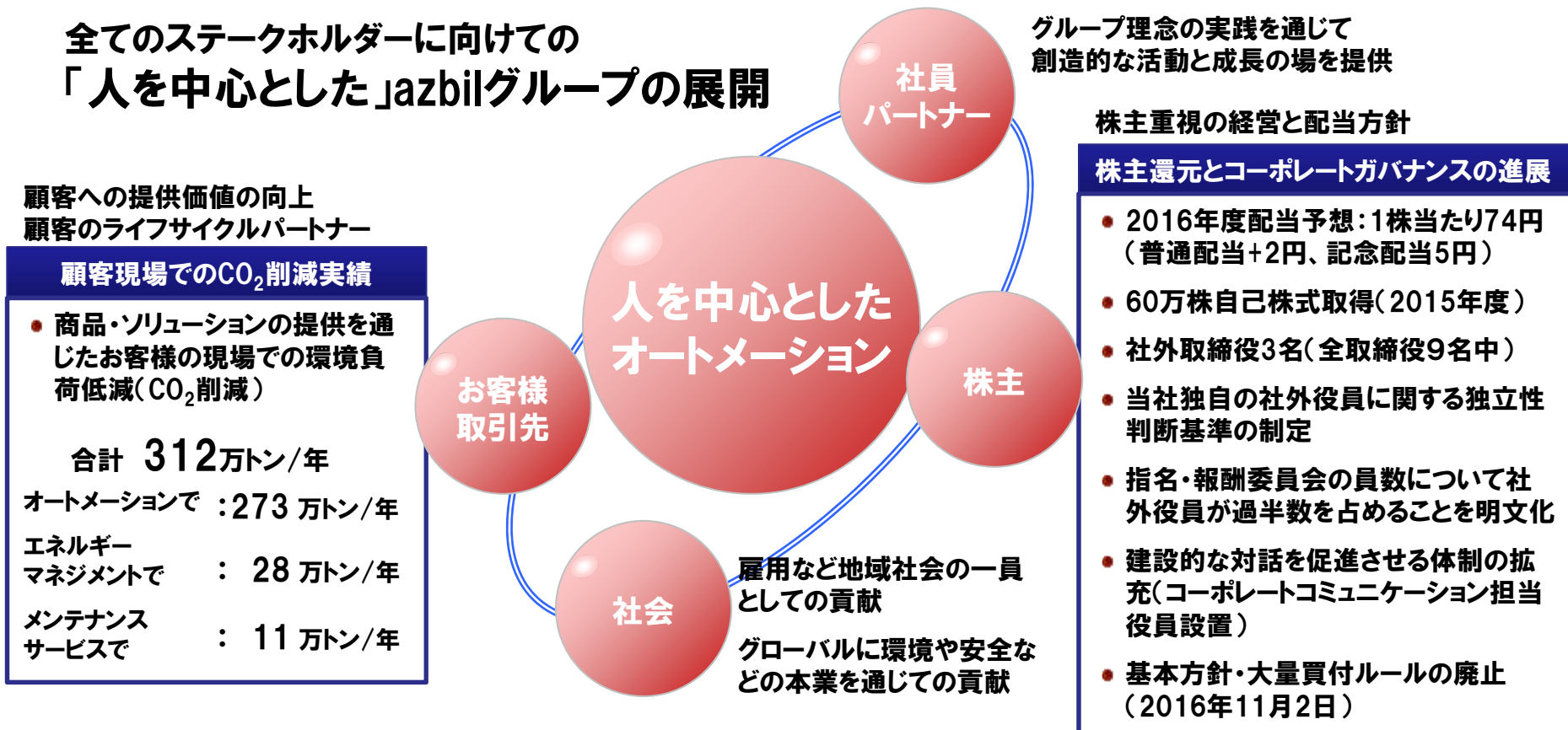
#### 【今後の展開】

- ・ 新たな事業環境の変化と事業成長計画に備えたローテーション、人材育成計画を推し進める。

## 4. 今後の事業展開に向けて 事業と共にazbilならではのCSR経営強化に努める



全てのステークホルダーに向けての  
「人を中心とした」azbilグループの展開



### 【結びとして】

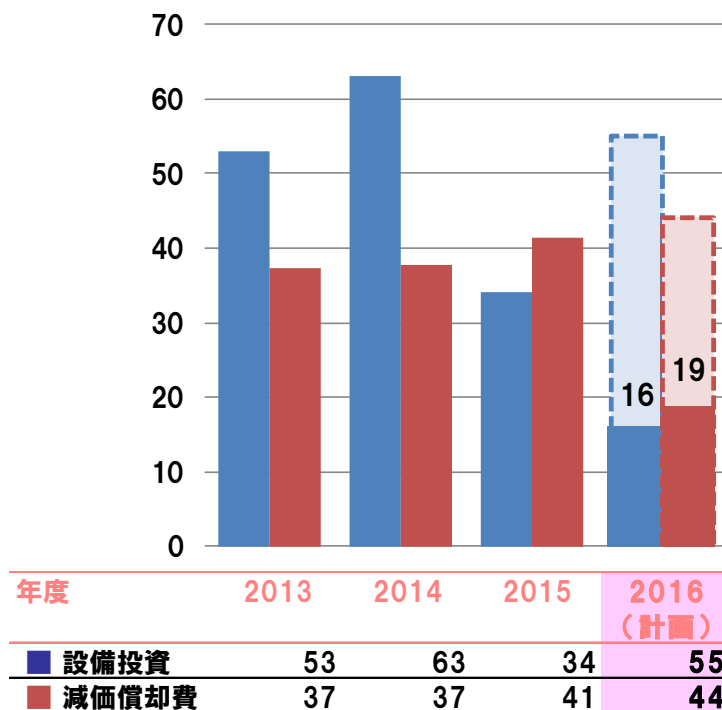
- azbil導入10年目の2016年度下期は、年度業績達成に向けた日々の取組みと共に、次の成長に向けた事業構造変革、体制整備の準備を着実に進めていく。
- こうした取組みを含めて、2017年度よりスタートする中期経営計画を準備中。

## 補足資料

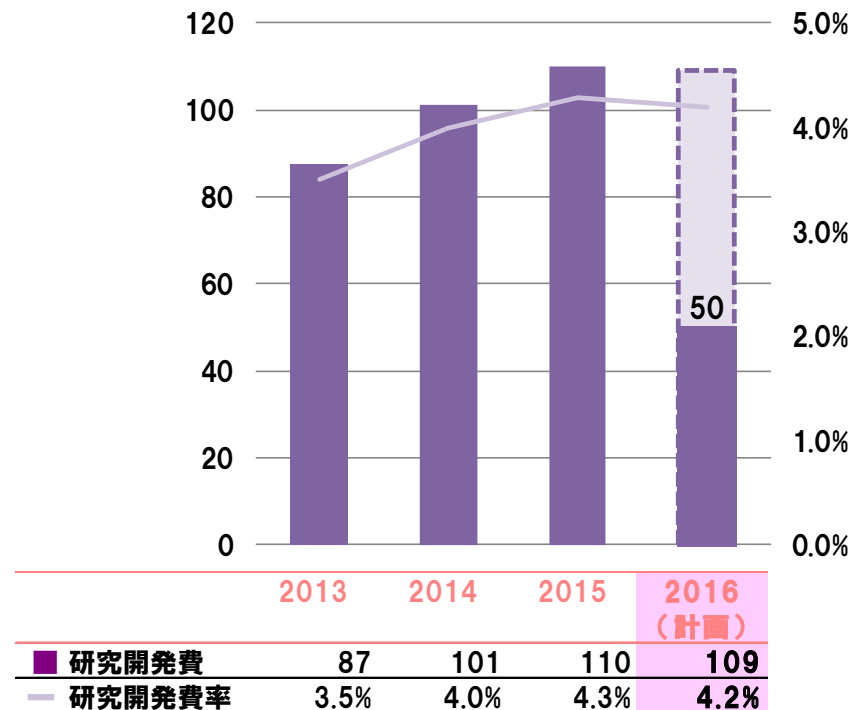
# 設備投資・減価償却費／研究開発費

[単位：億円]

■ 設備投資・減価償却費



■ 研究開発費・研究開発費率



※ 2015年5月に稼働した基幹情報システムの更新に係る投資が2012年度から発生。これに加え、2014年度には海外における生産設備への投資を実施。  
2016年度からは開発・生産体制の再編に係る投資を計画。

azbilグループは、  
「人を中心としたオートメーション」で、  
人々の「安心、快適、達成感」を実現するとともに、  
地球環境に貢献します。

アズビル株式会社は2016年に創業110周年を迎えます。



YAMATAKEで100年、azbilで10年。合わせて110年。  
いつの時代も「人を中心としたオートメーション」で人々のシアワセを  
第一に考えてきたazbilグループは、これからも計測と制御の技術のもと、  
より一層の価値創造を進め、皆さまとともに歩んでまいります。

<お問い合わせ>

アズビル株式会社  
グループ経営管理本部  
IR室

電話: 03-6810-1031  
メール: [azbil-ir@azbil.com](mailto:azbil-ir@azbil.com)  
URL: <http://www.azbil.com/jp/ir/>